

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2020/12/31	2021/6/30	2021/7/9	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	27,444.17	28,791.53	27,940.42	30,714.52	2021/2/16	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	30,606.48	34,502.51	34,870.16	35,091.56	2021/5/10	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	103.25	111.11	110.14	114.55	2018/10/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～変異ウイルスを中心とする新型コロナウイルス感染拡大への懸念から、下落～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲842.86円(▲2.93%)、TOPIXが▲43.93ポイント(▲2.25%)となり、変異ウイルスを中心とする新型コロナウイルス感染拡大への懸念から、下落しました。業種別(東証33業種)でみると、空運業、陸運業の2業種が上昇した一方、鉱業、証券・商品先物取引業、鉄鋼、ゴム製品などの31業種が下落しました。週初5日は、新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念や、週後半にETF(指数連動型上場投資信託受益権)の分配金の支払いに関連した売りが出ることへの警戒感などから下落して始まりました。その後も、①米ISM非製造業景況指数など米欧の経済指標が市場予想を下回る結果となったことで、世界景気の回復鈍化が意識されたこと、②中国政府が中国企業の海外上場規制を強化する方針を発表したことで、中国ハイテク株が急落したこと、③東京都に4度目の緊急事態宣言が発出される見通しとなったことなどから、軟調に推移しました。週末9日は、世界規模での変異ウイルスを中心とする新型コロナウイルスの感染拡大により、経済活動の正常化が遅れるとの懸念が広がるなか、前日の主要な海外株価指数が軒並み下落した流れを引き継ぎ、下落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
7月12日	Mon	日本	機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	5月	+0.6%
7月13日	Tue	中国	貿易収支	6月	+455.4億ドル
		米国	CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	6月	+3.8%
7月14日	Wed	欧州	ユーロ圏鉱工業生産(前月比)	5月	+0.8%
		米国	パウエルFRB(米連邦準備理事会)議長、議会証言(14日:下院、15日:上院)		
			ベージュブック(地区連銀経済報告)		
7月15日	Thu	日本	PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	6月	+4.8%
			日本銀行、金融政策決定会合、16日まで		
		中国	第3次産業活動指数(前月比)	5月	▲0.7%
			鉱工業生産(年初来/前年比)	6月	+17.8%
7月16日	Fri	米国	GDP(国内総生産)成長率(前年比)	4-6月期	+18.3%
			鉱工業生産(前月比)	6月	+0.8%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景況指数	7月	17.4
			フィラデルフィア連銀製造業景況指数	7月	30.7
米国	小売売上高(除自動車)(前月比)	6月	▲0.7%		
	ミンガン大学消費者信頼感指数	7月	85.5		

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	7/12 コスモ薬品 7/13 東宝 7/15 ファーストリテイリング
	海外	決算発表 :	7/13 ヘプソン、JPモルガン、ゴールドマン 7/14 バンク・オブ・アメリカ、ウェルス・ファースト、ブラックロック、デルタ航空 7/15 TSMC、モルガン・スタンレー、アルコア 7/16 エリクソン

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～業績改善期待が下値をサポートするも、米金融政策動向への警戒感から上値の重い展開～

今週の日本株市場は、業績改善期待が下値をサポートするも、米金融政策動向への警戒感から上値の重い展開を予想します。東京都に対する4度目の緊急事態宣言や、東京オリンピックが大半の会場が無観客での開催となったことはサービス業の業績下押しに働くものの、これらの悪材料は織り込み済みで影響は限定的とみています。一方、製造業は、週末に中国人民銀行が預金準備率を引き下げたことで中国景気の鈍化懸念が後退し、先行きの業績改善期待は維持されるとみています。来週以降本格的な4-6月期決算発表時の会社計画はこれらを反映し強弱混在した内容になると予想しますが、一定の買い安心感は維持されるとみています。但し、今週は米国の重要指標の発表が相次ぐことや、14・15日にパウエルFRB議長の議会証言が予定されていることから、FRBの緩和縮小時期に注目が高まる中で、これらの内容次第では市場の波乱材料になることも想定され、週初(12日)の急反発後は当面の上値の重い展開になると予想しています。その他の注目材料として、日本では15・16日の日銀金融政策決定会合、米国では13日のCPI、15日の鉱工業生産、16日の小売売上高、欧州では14日のユーロ圏鉱工業生産、中国では15日のGDPなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会